

モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座

公益財団法人才能開発教育研究財団

日本モンテッソーリ教育総合研究所／教師養成センター

1. 「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」 …… 2

2. モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座概要 …… 3

●受講開始までの流れ

●履修に関して

- ・履修のしくみ
- ・単位制—スクーリング／レポート
- ・受講生マイページとメール配信サービス
- ・受講通信
- ・卒業
- ・資格試験
- ・休学／退学

●2歳半～6歳コース／0歳～3歳コース

- ・コース概要
- ・履修年限
- ・履修科目一覧
- ・履修科目について
(理論科目／実践科目)

3. 組織について …………… 12

- ・公益財団法人才能開発教育研究財団
- ・日本モンテッソーリ教育総合研究所

「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」

日本モンテッソーリ教育総合研究所は、1976年に日本で初めて「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」を設立しました。

モンテッソーリ教育は、マリア・モンテッソーリが科学的な視点から『子どもの家』の子どもたちをつぶさに観察・考察し、試行錯誤を繰り返しながら生み出された教育法です。モンテッソーリが着目したのは①「子どもを観察する」、②「教育の主体は子どもである」という点にありました。そこから導き出された基本的な考え方は、子どもは生まれながらに「自己教育力」を持ち、自然から与えられた設計図に基づいて、おのずから成長・発達する存在だとしています。したがって大人(教師)にできることは「さまざまな経験が可能なように子どもを取り巻く『環境』を整え、成長・発達できるように『自由』を保障することで、『すでに始まっている成長という仕事を助ける』ことだけである」と述べています。

このようなモンテッソーリ教育の考え方に共鳴・賛同した当研究所は、日本における同教育のさらなる拡充と普及をめざしてきました。その結果、従来にはなかった、学ぶにあたって時と場所を選ばない「通信教育」という方法を取り入れることになったのです。



マリア・モンテッソーリの略歴

- | | | | |
|-------|---|-------|--------------------------|
| 1870年 | 8月31日、イタリア中部アンコーナ近郊に生まれる。 | 1913年 | 初めてアメリカに渡り、講演旅行をする。 |
| 1871年 | [イタリア、国家統一完成] | 1914年 | [第一次世界大戦勃発～1918] |
| 1886年 | 国立レオナルド・ダ・ビンチ工科高等学校入学。 | 1915年 | スペインのバルセロナに移住。 |
| 1890年 | ローマ大学入学(92年、医学部へ進学)。 | 1922年 | [ムッソリーニが政権に就く] |
| 1896年 | 女性としてローマ大学最初の医学博士号を取得。 | 1936年 | オランダのラーレンに移住。 |
| 1897年 | ローマ大学医学部附属精神病院助手になる。 | | [スペイン内乱起こる～1939] |
| 1901年 | ローマ大学で心理学を学ぶ。 | 1937年 | 「平和のための教育」を講演。 |
| 1904年 | ローマ大学教師養成コースで教育人類学を講義。 | 1939年 | インド訪問。以後7年間滞在。 |
| 1907年 | 「子どもの家」を開設。 | | その間に『幼児の秘密』『吸収する心』などを著す。 |
| 1909年 | 第1回国際モンテッソーリ教師養成コース開催。 | | [第二次世界大戦勃発～1945] |
| | 『「子どもの家」の幼児教育に適用された科学的教育学の方法』(モンテッソーリ・メソッド)を出版。 | 1951年 | 第9回国際モンテッソーリ大会で講演。 |
| | | 1952年 | 5月6日、オランダで死去。 |

モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座概要

学びの意志=学びの場になる「通信教育」

モンテッソーリ教育を学びたい人にとり、通信教育というスタイルは場所や時間を選ばない有効な学習方法です。国内外を問わず学びたい人を受け入れるシステムにより、本通信教育講座の門戸を叩いた方は4,500名を超えています。受講生も中国、アメリカ、ヨーロッパ、中近東等、さまざまな国々から参加されています。幼稚園や保育園といった現場のみならず、自らの子育てに活用したいと考える保護者、またモンテッソーリ教育へ関心をもつ他業種の方の受講も増えており、卒業後には日本および世界各地でその力が発揮されています。

「モンテッソーリ教育」を学ぶ2つのコース

本通信教育講座では、2つのコース編成にして、皆さんにモンテッソーリ教育をお伝えしていきます。

2歳半～6歳コース

マリア・モンテッソーリが考案した教育法に基づいた2歳半～6歳児のコース
(1976年に開講。当研究所においては40余年の歴史があります)

0歳～3歳コース

マリア・モンテッソーリの遺志を受け継いだ人々により開発された教育法に、最新の赤ちゃん学、脳科学の情報を加えた乳幼児コース(2007年に開講)



スクーリングのようす

広がる「モンテッソーリ教育」普及への取り組み

本通信教育講座は、郵便の届く地域で、かつ受講資格を満たしていれば、どこにいても受講できるという、40年余にわたって培われた学びのスタイルを現在も続けています。

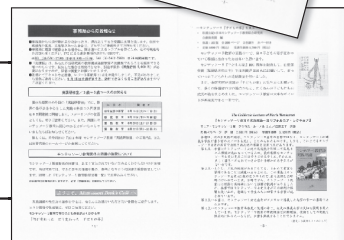
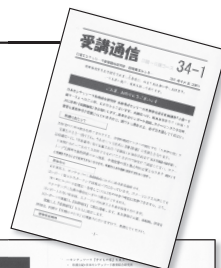
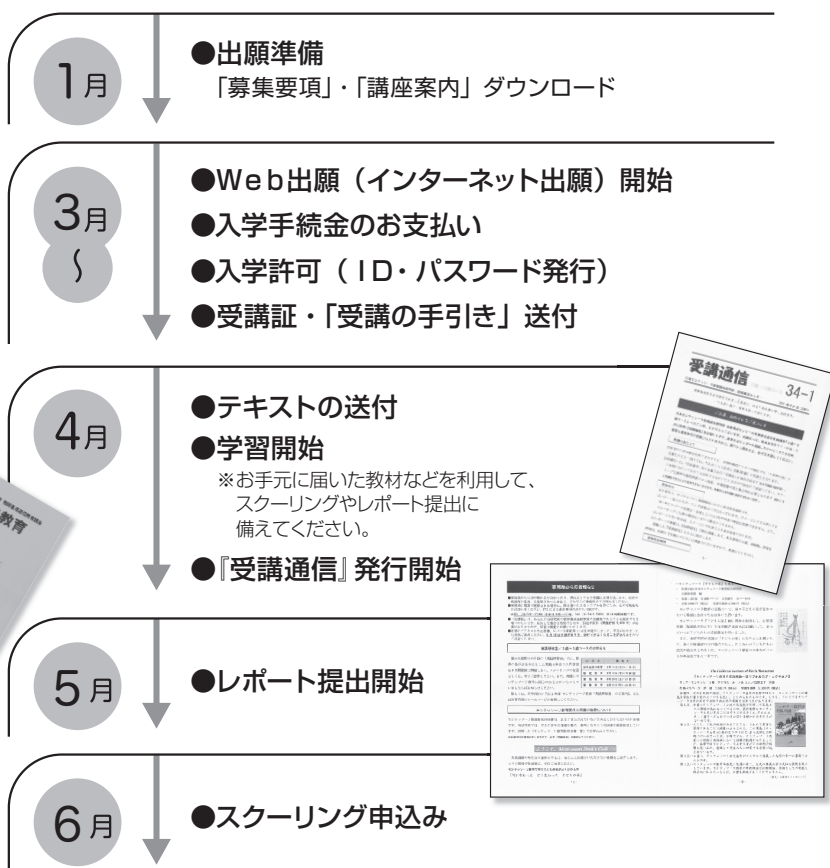
2011年4月、財団法人「才能開発教育研究財団」は公益財団法人「才能開発教育研究財団」へと移行しました。事業の一部である当研究所は、今後もモンテッソーリ教育を学ぼうと希望されている方々を全力でサポートし、その方々に連なる未来をつくる子どもたちを支援し続けます。(※公益財団法人「才能開発教育研究財団」に関しては12ページをご参照ください)

受講開始までの流れ



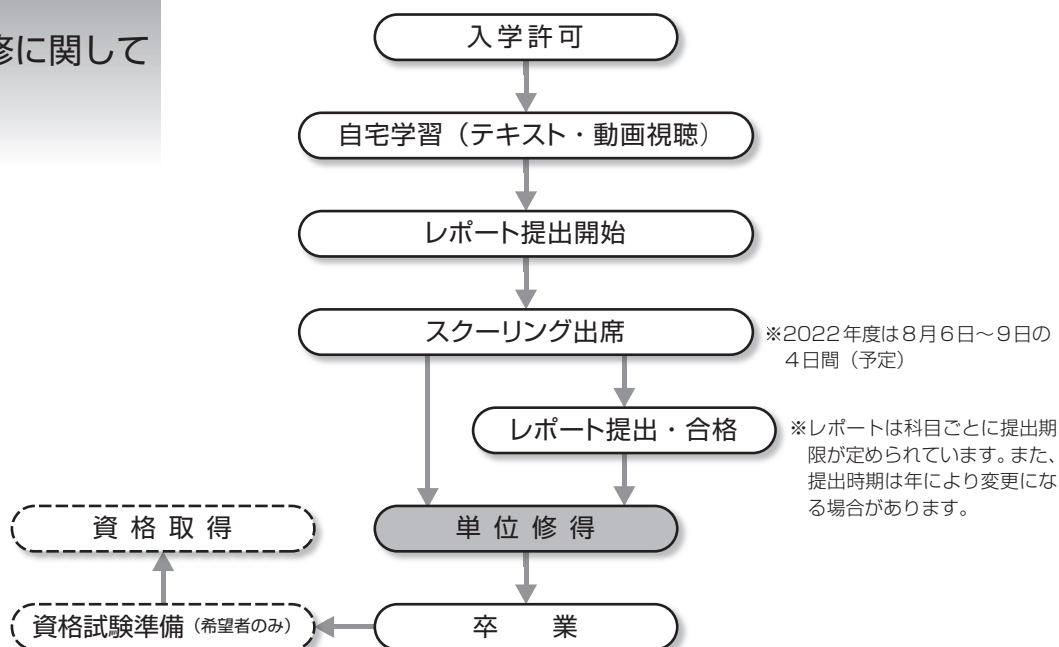
テキスト

実践5科目のテキスト（2歳半～6歳コース）。詳細な説明とともにイラストを用いて、独習するにあたって「提示」に関する理解をいっそう深める目的で作られています。



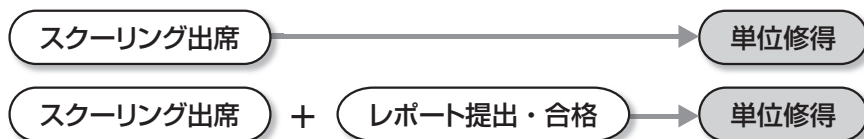
履修に関して

履修のしくみ



単位制

本講座では、「単位制」をとっています。このシステムは、スクーリング出席[※]と、レポート提出を同一年度内に行っていただくことにより初めて単位修得ができるものです。科目によっては、スクーリング出席[※]のみで単位修得となるものもあります。



※科目によってはスクーリング出席の代わりに講義動画を Web 上で視聴していただくものもあります。

スクーリング

毎年8月上旬の数日間(朝9時20分から16時45分まで、1日4コマ各90分を基本とする)に渡って行われます。実践科目に関しては、それぞれの教具がどのような構造をもっているか、それがモンテッソーリの理論とどうつながっているかを意識し、各科目とも、「導入⇒提示⇒演習」の流れで進められます。理論科目に関しては、各分野の専門家を講師に招き、講義を受けます。



▲スクーリングの受講風景▶

※スクーリング期間中の託児所などは設置しておりません。



レポート

レポート課題は「受講生マイページ」にて公開されます。送付されているテキストや必読図書、その他文献などを参考に作成し、期限までに提出します。レポートの作成は各自パソコン等で行い、「受講生マイページ（次ページ参照）」から Web 提出していただきます。提出されたレポートは担当教師により評価・採点され、受講生へ通知されます。

レポートの点数や評価コメントは「受講生マイページ」にて確認できます。

レポートは 60 点以上を合格、それ未満を不合格とし、不合格者は再提出となります。評価コメントはよく読み、より深い学びに役立ててください。

受講生マイページ

受講生マイページ（以下、マイページ）は受講生専用の Web サービスです。単位修得に必要な動画の視聴やレポートの作成・提出などは、このマイページ上で行っていただきます。マイページにログインしていただくと、スクーリング出欠状況やレポートの提出状況など、ご自身の受講状況も確認することができます。月一回発行される「受講通信」をはじめ、事務局からの「お知らせ」もマイページに掲載されます。「お知らせ」が掲載されると、受講生にはメールで通知されます。

『受講通信』

本講座は、通信教育という特性から、働きながら学べる、遠方からでも受講できる、という利点があります。受講生は広く国内外におよび、さまざまな職種、年齢の方々が受講されています。本講座での基本的な学び方は自学自習です。教師養成センターでは、Web を通して毎月 25 日に（8月はなし）『受講通信』を発行し、受講生の皆さんをサポートしています。

『受講通信』 の内容

- ①レポートや動画に関するお知らせ
- ②スクーリングに関するお知らせ
- ③履修等に関わる各種お知らせや情報の掲載
- ④その他、各種講座等の開催予定や図書の紹介等

通信教育は、通学スタイルの学びとは異なり、ご自身でのスケジュール管理等を求められる学習スタイルです。各月の『受講通信』にはレポートやスクーリング等学習に関わるスケジュールや、重要事項が随時掲載されます。

卒業

在籍年限内にすべての単位を修得された方は卒業となります。卒業される方には、3月に行われる卒業式で、卒業証書が授与されます。

資格試験

当研究所では、本通信教育講座卒業生または卒業見込みの方を対象に資格試験を行っています。この試験はモンテッソーリ教師としての資質・技能を判断する試験です。合格者には当研究所所長名で「資格証」が発行されます。この「資格証」は、当研究所が独自に発行するものです。公的な保育士資格・幼稚園教諭免許などとは性格が異なります。

- 受験資格者：当研究所通信教育講座卒業生および卒業見込みの方。
- 試験内容：筆記試験と実技試験があり、それぞれに合格することが必要です。実技試験は個人面接の形をとり、口頭質問と教具提示の2種類の方法で行います。詳細は10月頃マイページにてご案内します。
- 試験時期：毎年3月下旬

休学／退学

●休学：一時的に受講が不可能になった場合は、休学制度を利用することができます。期間は4月から翌年3月までの1年を基本とします。休学中は受講料の支払いが一旦停止となりますが、履修年限以降の休学の場合は、学籍更新時に在籍料がかかります。復学は毎年度始め（4月）に限定されます。

●退学：以下の場合には退学となります。またすでに納めた費用については返金されません。

- ①全科目の単位修得に至らないまま在籍年限を超えた場合
- ②納入すべき学費を正当な理由なく遅延あるいは不払いの場合
- ③登録情報変更などの手続きがなく、連絡がとれなくなった場合
- ④受講生側の事情で、受講生マイページへのログイン・閲覧が不可能になり履修困難となった場合

2歳半～6歳 コース

モンテッソーリ教育の基本的な考え方をまとめると、以下のようになります。

- 子どもは「発達」を遂げるために生まれてくる
- 子どもには自分で発達を成し遂げていく「自己教育力」が存在する
- 自己教育力は具体的には「敏感期」として現れる
- 敏感期に見合った「環境」を整備する
- 環境と子どもが主体的に交わるように「提示」を充実する
- 子どもに「集中現象」が現れるように導く

乳幼児期(0歳～6歳)の発達は前期と後期に分けられます。2歳半～6歳コースの対象となる後期は「意識の芽生え」の段階にあります。前期の段階で「無意識の吸収精神」によって環境から吸収したさまざまな事柄を、意識をもって整理、秩序化する時期です。この時期には運動の敏感期、感覚の敏感期、言語の敏感期、数の敏感期、文化の敏感期等が現れます。そして、それぞれの敏感期に対応する環境として『日常生活の練習』『感覚教育』『言語教育』『算数教育』『文化教育』がモンテッソーリ教育の5分野として位置づけられています。2歳半～6歳コースの講義は理論と実践の2本柱です。物的環境としての用具、教具類は0歳～3歳の子どもが対象とする物よりも圧倒的に数が多くなります。また、使い方を行ってみせる「提示」もこの段階の子どもの発達段階に合わせ、段階を踏みながら複雑で手順の多いものになっていきます。したがって、講義内容は理論講義よりも実践講義の比重が高くなります。また、『文化教育』の実践が体系的に紹介される点も当コースの特徴です。

履修年限

履修年限（卒業までの最短年数）	在籍年限（在籍可能な最長年数）
2年	4年

カリキュラムは2年間ですが、最長4年間在籍できます。

履修科目一覧

分野	1 年次履修科目	2 年次履修科目
A. 理論科目： モンテッソーリ教育の 土台としての理論	・ 教育学	・ 心理学 ・ 医学 ・ 発達障害概論
B. 理論科目： モンテッソーリ教育の 理論	総論 ・ マリア・モンテッソーリ その生涯と業績 ・ モンテッソーリ教育概論 I	・ モンテッソーリ教育概論 II
	各論 ・ 児童観 ・ 実践理論	・ 自由論 ・ 教師論
C. 実践科目： 方法論	・ 日常生活の練習 ・ 感覚教育	・ 言語教育 ・ 算数教育 ・ 文化教育

* 2021年度の履修科目です

履修科目について

理論科目

「理論科目」と「実践科目」により構成される本通信教育講座は、モンテッソーリ教育を実践するうえで必要とされる「教育学」「心理学」「医学」「発達障害概論」等を理論科目として扱っています。これらの科目が目的とするところは、幼児教育を実践するうえで必要とされる幅広い視野を養い、学びの基盤となる土台づくりを行うことにあります。また、「モンテッソーリ教育概論」では、モンテッソーリの考える生命観の視点から幼児教育を考え、社会性や道徳・平和へと理解を深めていきます。

実践科目

2歳半～6歳コースの「実践科目」では、以下の分野を学びます。

日常生活の練習（1年次履修）

『日常生活の練習』の目的は、運動の完成です。幼児は大人のすることを何でも真似しがります。その「模倣期」と「運動の敏感期」とを利用して、自分の身体を意志どおりにコントロールする能力を身につける場が『日常生活の練習』です。「子どもはできないのではなく、やり方を知らないのだ」という考え方に立って、正確にやり方を伝えます。自分のことが自分でできるようになった子どもは、「自立」に向けて大きな一歩を踏み出します。具体的には、歩く、はさみで切る、コップに水を注ぐ、ボタンをかける、室内を掃く、洗濯をするなど、実生活と密接に関連する多くの活動があります。

感覚教育（1年次履修）

人間は外界の情報を感覚器官によって収集します。3歳過ぎの子どもは、感覚器官がほぼ発達を遂げ、さまざまな感覚刺激に対して敏感です。小さな物を見つけたり、かすかな音を聞きつけたり、微妙な匂いや味を区別したりします。その「感覚の敏感期」を利用して、意識して感覚器官を使って練習するのが『感覚教育』です。練習によって感覚器官が洗練されれば、外界からより精確でバラエティに豊かな情報を収集できるようになり、知性や情緒が発達します。

また、感覚教具には、「対にする」「段階づける」「分類する」という、三つの操作が位置づけられています。このことによって、まさに脳の前頭葉が働き始め、知性が芽生え始めた時期の子どもは「ものを観察する能力」と「ものを考える方法」とを身につけることとなります。モンテッソーリ教育では、『感覚教育』は『言語・算数・文化教育』という知的教育分野の基礎となる大切な役割を担っています。

言語教育（2年次履修）

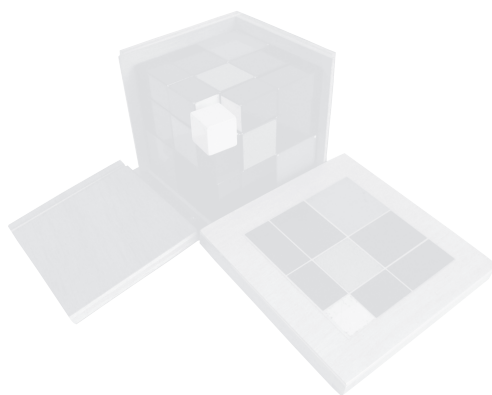
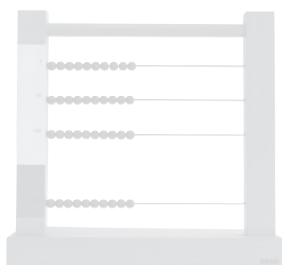
子どもは最初からことばを獲得して誕生してくるわけではありません。子どもは「言語の敏感期」の時期に自分の周囲で話されていることばを母語として獲得します。ことばの量や質は環境に左右されます。モンテッソーリ教育の『言語教育』は、子どものことばの発達段階に合わせてきめ細やかなステップを踏んで、語彙を豊かにすることから始まり、最終的には文法にまで至ります。文字を書くこともまた、『日常生活の練習』や『感覚教育』で養った手や腕をコントロールする力を利用しながら、身につくような工夫がされています。したがって子どもは、文字に興味をもった時期に知らず知らずのうちに文字を書いたり読めるようになるのです。

算数教育（2年次履修）

車のナンバープレートの数字や物の大きさ、量に興味を示す「数の敏感期」が幼児期には表れます。そのときに数に関する教具の環境があれば、子どもは容易に吸収します。モンテッソーリ教育の算数教具はただ単に数を唱えるものではなく、数量が具体物で表され、手で扱えるようになっています。そしてそれらは、感覚教具からの継続として準備されています。既知から未知へ、子どもはスムーズに導かれます。四則演算でいえば、実際に1000個のビーズからなる重い立方体から、色と数字で数量を表す切手という半抽象の段階を経て、暗算という完全な抽象の段階へと無理なく至ります。

文化教育（2年次履修）

『文化教育』は、「ことば」と「数」以外の子どもの興味を対象とした幅広い分野です。歴史、地理、地学、動・植物など、小学校の社会科、理科に相当する分野を扱います。子どもの知りたいという要求に応え、興味の種を可能な限り多く蒔くことを目的とします。ほかの4分野が統合された総合学習としても考えられます。



0歳～3歳 コース

0歳～3歳は長い一生の出発点であり、この後に続く何十年という人生の基盤となる時期です。そのうえこの時期は無意識、つまり記憶には残りません。しかし、この記憶に残らない時期が人生の中でもっとも吸収力の強い時期であり、その後何十年かけても達成できないようなさまざまな事柄を、いとも簡単に、成し遂げていくことができる時期ともいえます。

この時期の発達の課題は、「できるようになること」です。たとえば一点を注視できる、首が据わる、はいはいができる、歩けるようになる、しゃべることができる等です。この発達の課題は、あらかじめ時期と順番がプログラムされたもの、つまり設計図として子どもの中に内在します。これは、私たち大人が教え込み、訓練して発達を遂げさせるのではなく、子ども自身ができるようになる力＝「自己教育力」を環境に注ぎ込むことで、発達は成されていきます。

この肉体・精神の両面における発達が健やかに成されていくために基盤となるのが、子どもにとっては私たち人間の社会に「適応」していくことです。「適応」は0歳～3歳コースのキーワードといってもよいでしょう。適応を可能にする条件として、私たち大人は「子どもを受容すること」が重要になり、その結果子どもには「基本的信頼感」、つまり人と結びつく力が築かれるのです。

0歳～3歳コースの講義は理論と実践の2本柱で構成され、講義内容は、子どもや子どもの発達に関する知識を伝える理論講義が多くなります。理論講義の背景に位置づけられるのは、モンテッソーリ教育の考えと現代科学で証明された事実です。

履修年限

履修年限（卒業までの最短年数）	在籍年限（在籍可能な最長年数）
1年	3年

カリキュラムは1年間ですが、最長3年間に在籍できます。

履修科目一覧

分野	履修科目
A. 理論科目：モンテッソーリ教育の土台としての理論	・医学 ・小児保健 ・生命の維持
B. 理論科目： モンテッソーリ教育の理論	・マリア・モンテッソーリ その生涯と業績 ・実践理論 ・0歳から3歳の発達 ・運動論 ・環境論 ・大人の役割 ・音楽 ・美術 ・3歳以降のモンテッソーリ教育
C. 実践科目： 方法論	・粗大運動の活動 ・微細運動の活動 ・日常生活の練習 ・言語教育 ・感覚教育

*2021年度の履修科目です

履修科目について

理論科目

「理論科目」では、0歳から3歳の子どもの精神・肉体両面の発達に関する知識、また、この時期の子どもに関わる大人の役割などについて学びます。0歳から3歳のモンテッソーリ教育がそれ以降どのように展開していくのかについての「3歳以降のモンテッソーリ教育」の授業もあります。モンテッソーリの考え方だけでなく、現代科学で証明されてきた事実を基にした理論（「小児保健」、「医学」等）を学び、乳幼児教育の実践に必要な幅広い視野を養います。

実践科目

0歳～3歳コースの「実践科目」では、以下の分野を学びます。

粗大運動の活動

運動の獲得は、子どもの成長の方向である自立への一歩です。ここでいう「運動」とは、跳び箱や鉄棒などの体育的なものをさすのではなく、歩く、階段の昇り降り等の全身を用いた大きな動きをさします。ずり這いから歩行までの運動の獲得を援助します。

微細運動の活動

ここでは主に、手、指を使った運動をさします。握る、落とす、たたくなどの動きを通して微細運動の獲得を促します。

日常生活の練習

粗大運動と微細運動が複合的に合わさった活動です。共同体の一員として日常の活動に参加させることにより、環境への適応を促していきます。着衣枠、観葉植物の世話などの活動が含まれます。

言語教育

ことばの獲得は、人間のDNAに組み込まれている本能です。子どもは「話しことばの敏感期」にしたがって、自分の周囲で話されている母語を獲得します。しかし、ことばの量や質は環境に左右されます。モンテッソーリ教育の『言語教育』では、子どものことばの発達段階に合わせてきめ細かなステップを用意し、豊かな語彙を養います。

感覚教育

子どもには、無意識に環境をまるごと吸収する精神が存在します。吸収する精神によってため込んださまざまな感覚的な印象は、感覚教具に触れることによって整理されていきます。「感覚の敏感期」を考慮し、発達段階や興味に応じた感覚教具に触れることにより、感覚の洗練を促します。また、感覚教具の操作方法は、子どもの知性の覚醒を促します。

組織について

公益財団法人才能開発教育研究財団

財団法人「才能開発教育研究財団」は、2011年4月1日付で、公益財団法人「才能開発教育研究財団」へと移行しました。当財団の活動すべてが、わが国の教育のさらなる進歩、発展に寄与する社会貢献活動であるとの自覚と自信をもち、財団の事業の一つである「日本モンテッソーリ教育総合研究所」においては、「モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座」や附属『子どもの家』等を通じてモンテッソーリ教育の普及や実践研究等の活動を行っています。

今後も、当財団は新しい幼児教育法の開発や指導者の育成をめざして一層努力し、全国の保育現場に広く情報を提供することを責務と考え、さらなる拡充を図っていきます。



千鳥町 財団本部ビル

日本モンテッソーリ教育総合研究所

日本モンテッソーリ教育総合研究所は、公益財団法人「才能開発教育研究財団」に属する組織です。1976年「モンテッソーリ教育の考え方とその方法を柱にして研究を進め、その成果を広く日本の教育界に広めていく」ことを目的として発足しました。現在も、「よりよい教育創造」をめざし、活動を続けています。モンテッソーリ教育の普及、子どもたちの健全な育成を目的とし、主に次のような事業を行っています。

- 教師養成事業 …モンテッソーリ教育 教師養成通信教育講座
国際資格取得コース
- 実践教務事業 …附属『子どもの家』
- 実践研修事業 …実践研修室
- その他の取り組み …入門講座（e-ラーニング）、モンテッソーリ関連図書翻訳・出版
海外のモンテッソーリ教育視察旅行企画、講演活動 ほか



公益財団法人才能開発教育研究財団
日本モンテッソーリ教育総合研究所
教師養成センター

〒146-0083 東京都大田区千鳥 3-25-5 千鳥町ビル
TEL.03-5741-2270 / FAX 03-5482-5999
<https://www.sainou.or.jp/>